

## トピックス

秋・冬物商戦は低調スタート

秋・冬商戦を控え、小売・サービス業では需要の増加が望まれているが、原材料高騰や気温の上昇等により売上が伸び悩んでいる。

●10月は紅葉見物の目的で観光客が増える時期であるが、東北地方が中心。富士五湖地方は11月が観光の本番となる。また富士五湖地方への修学旅行客は毎年減少傾向にあり、景気の上昇間は感じられず、客単価が下落。(宿泊業)

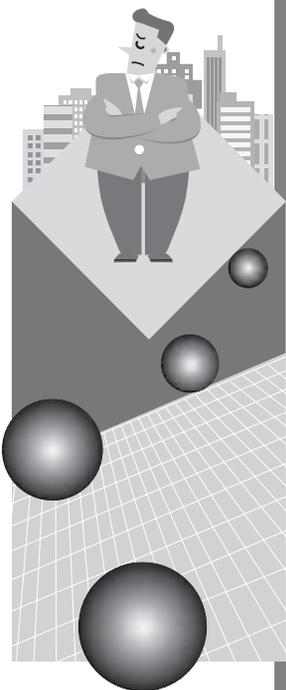
●観光シーズンが来たとは思えない、来客数。厳しい状況(宿泊業)

●クリスマス商戦が近づき、売上の増加が期待されたが消費の低迷と原材料高の影響により売上が減少している。11月はジュエリー・ファクトリーセールなどを実施し、需要が盛り上がることを期待。(金属製品卸売り)

●地金価格の水準が高いままで(昨年同月比1.3倍)生産数量が減少。クリスマス商戦に向けての動きも昨年度より活発さが見られない。(貴金属製造)

●秋冬物商戦が始まっているが、普段より活気がなく、共同での売り出しを行っても来街者が少ない状況(卸売業)

●数値的には昨年度と変わらないが、売上・来客数共に先行きの見通しがたない状況。例年だと月の後半には鍋物需要がでて活気がでてくるが、今年は気温が高く、需要を



## ▶データから見た

# 業界の動き

山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告(平成18年9月分)

下記のグラフに示されている割合をDI値により分析すると、収益状況は前年同月に比べて18ポイント増加、前月比でも4ポイント増加している。売上高は前年同月と変動は無いが、前月と比べると2ポイント増加している。また、景況感についても前年同月と比べて2ポイント増、前月と比べても6ポイント増加するなど持ち直しの動きが見えている。しかし、情報連絡員から寄せられた個々のコメントから全体の景気状況をみると、消費動向は低調で、さらに原材料高や原油価格の上昇に伴い収益率が悪化するなど、先行きの不透明さを訴える声が多い。

$$DI値 = ((\text{良数値} \div \text{対象数}) \times 100) - ((\text{悪数値} \div \text{対象数}) \times 100)$$

鈍らせている。(食料品小売業)

## 業界から一言

県内景気・消費動向は低調、原油価格の再高騰への不安の声

●イベントなどへの参加が行い、業界振興を図っているが、世間で言われる景気回復の兆候が一向に現れていない感じがする。(ワイン製造)

●燃料費が少し下がったが、先行きの不安は払拭できない。(道路貨物運送業)

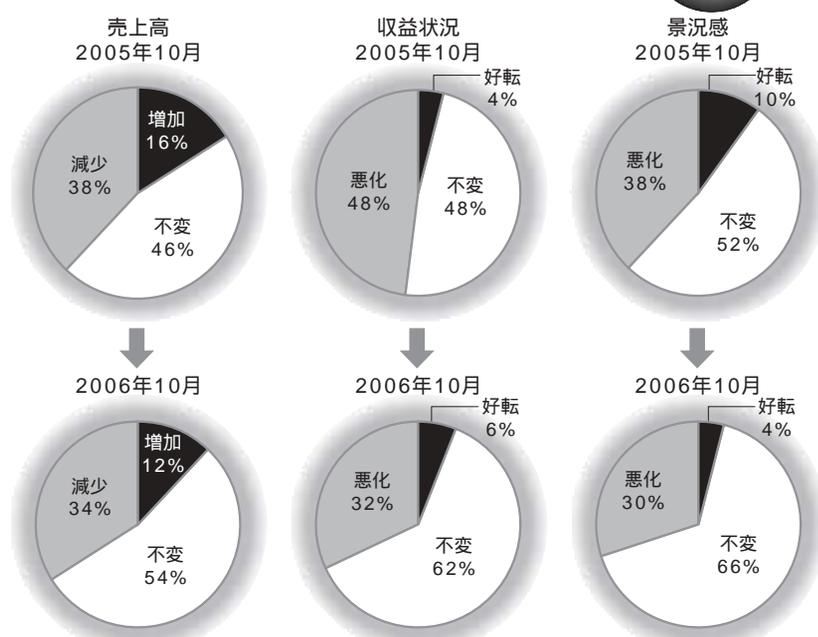
●10月期は原油価格の大幅な下落と需要の低迷により元売り価格は前月比4円程度の値下げ予想が

されたが、今年1月より9月までのコスト上昇分を価格転嫁できていない各小売店は2円程度の値下げ。しかし原油価格の下落はまもなく終わり、再度上昇するものと思われる。と分析、原油価格高騰の影響は長期化することが予想される。(石油小売業)

●来店サイクルが長くなっている。(美容業)

●全般的に受注量が低調。ジャガード織りの紋紙を作る業者に仕事が入っていないので、低調なムードは当分続きそう。(織物製造)

●道路工事の減少が大きく



影響し、売上高の前年同月比△30%、各社資金繰りも悪化。今後の見直しも不透明。(砂利採取業)

●公共投資の減少により一部地域を除いて、土木関連工事が少なく、年度当初より7ヶ月連続で前年度を下まわっている。大変厳しい状況。(生コン製造)

●当月は退店者が多く、売上が減少。世間で言われているような好況の兆しは数字的には現れていない。(ショッピングセンター)

●公共工事が減少し、今後増加する見通しも無いため、廃業や業種転換の動きが増している。(総合建設業)

●受注の見通しが悪い(木造建築)

●県内の建設現場も増えて

いるが、型枠材であるコンパネの値上がり分を単価に上乗せできず、必然的に賃金のカットで吸収するような傾向にある。工事物件の多い首都圏では23,000円/日前後まで賃金を出す物件が多いが、県内の型枠大工の賃金は14,000円/日前後まで下がっている。(職別工事)

●合板・パーティクルボード、接着剤、シンナー及び塗料などの原材料が値上がりしており、今後の不安材料となっている。(家具製造業)

●バルブや薬品などの原材料が昨年に比べ20%程度値上がりしている。(紙製造業)

●営業車の燃料費負担が大き(飲食料卸売業)

●公共工事が減少し、今後増加する見通しも無いため、廃業や業種転換の動きが増している。(総合建設業)

●受注の見通しが悪い(木造建築)

●県内の建設現場も増えて